

## 令和5年度 中期計画の進捗状況について（概要）

### 1 中期計画の進捗状況に係る検証について

- ・評価センターでは、中期計画に係る令和5年度の「評価指標の年度目標」及び「本学独自の年度計画」（以下「年度計画」という。）の進捗状況について、各部局から提出のあった「中期計画の進捗状況に係る点検シート」の報告を基に、評価センター作業部会及び専門部会において検証を行った。その結果を各部局へフィードバックし、次年度以降の年度計画の設定の参考とすることで、中期計画の達成を目指すものである。
- ・教育に関する中期計画のうち2-1、2-2、3-1、4-1、5-1については、各計画の評価指標が「外部評価による評価結果」そのものであるため、岡山大学第4期中期目標・中期計画「教育に関する目標を達成するための措置」に関する外部評価報告書を作成する。

### 2 自己評価結果

中期計画ごとの年度の進捗状況（自己評価）を以下の表に示した。

中期計画の区分	中期計画数	進捗状況の4段階評価			
		IV	III	II	I
社会との共創	2		2		
教育	2		2		
研究	4	1	1	2	
その他社会との共創、教育、研究	3	1	2		
業務運営	4		4(2)		
財務内容	1			1	
自己点検・評価及び情報提供	1		1(1)		
その他	1		1		
合計	18	2	13(3)	3	0

#### ※進捗状況の4段階評価

IV：当該年度の計画を十分に進捗しており、優れた実績・成果を上げている

III：当該年度の計画を十分に進捗している

II：当該年度の計画を十分には進捗していない

I：当該年度の計画を進捗していない

※括弧書きは、中期計画に定めのない本学独自の評価指標数で外数

※教育の5つの計画（2-1、2-2、3-1、4-1、5-1）は、検証の結果については、外部評価報告書を作成する。

### 3 評価センターによる主な検証結果

各中期計画の年度の進捗状況が「IV：当該年度の計画を十分に実施しており、優れた実績・成果を上げている」と自己評価されたものは、中期計画 9-1 及び 10-2 であった。評価センターでは、自己評価結果を尊重することとしているが、各計画の進捗状況を検証した結果、評価できる点と併せて、今後さらに実施内容の充実が図れる点が明確になるよう、以下のようコメントした：

- ・中期計画 9-1：日本学術振興会特別研究員について、昨年度より多くの学生を輩出していることは評価できる。

他方で、現行の制度で受給率を上げるのが難しいのであれば、学振特別研究員の採択率を上げるための戦略を立てるのもよいのではないか。また、R5 年度に再公募された次世代研究者挑戦的研究プログラムへの申請の採否など未確定な内容による改善が記述されており、それが上手くいかない場合の対応あるいは支援者の増加に伴って生じる担当教職員の業務負荷のサポート体制の検討を具体化していただきたい。OU フェロウシップなど、引き続き博士後期課程学生への支援の継続をお願いしたい。

中期計画 (9-1)	博士後期課程学生の処遇向上並びにアカデミア及び産業界を含めた、多様なキャリアパスの確保を全学的な戦略の下で一体的に推進することで、優秀な人材が積極的に学びやすい環境を構築・整備する。		
中期計画に定められた評価指標	(1) 生活費相当額受給率：生活費相当額受給必要者の 8 割		
評価指標の年度目標	60%	評価指標の達成状況	60%

- ・中期計画 10-2：地域中核病院間連携強化などにより、当該地域の医療提供体制の安定化や治験推進体制の充実には貢献していることは評価できる。

他方で、CMA-O 治験事業の拡大により、参加施設数が増えたことに伴い、どのようなアウトカム・インパクトがあるのか、具体的な記載をお願いしたい。

中期計画 (10-2)	地域の医師偏在に対応した、持続可能な地域医療提供体制の構築とともに、地域中核病院間連携の推進と、中国・四国地域に点在する中核病院間を結ぶホスピタル・ネットワークを構築する。		
中期計画に定められた評価指標	(1) 中国・四国地域の病院間連携を強化・拡充するための仕組みを構築し、当該地域の医療提供体制安定化に貢献する。：病院間連携の仕組み構築と参加施設数 10 施設		
評価指標の年度目標	参加施設数：8 施設	評価指標の達成状況	参加施設数：3 施設増 (計 10 施設)

また、各中期計画の年度の進捗状況が「II：当該年度の計画を十分には進捗していない」と自己評価されたものは、中期計画 8-1、9-2 及び 13-1 であった。それぞれについて評価センターでは、自己評価IVの計画と同様の考え方で、以下のようコメントした：

- ・中期計画 8-1：RECTOR プログラム等の成功を深化した「最重点研究分野」の創設や高等先鋭研究院 (4 研究所と先鋭研究群) の構築など強みのある研究分野の強化への取り組みは評価できる。

他方で、RECTOR プログラム支援拠点のうち 2 拠点が学術変革領域 A に申請しヒアリングまで進んでいることや、国際研究拠点支援事業から国際先導研究への申請準備が行われていることから、Top10%論文数増加率の進捗に期待する。国際的な共同研究の

支援のみならず、事務的な面からもサポートを補強すると良いのではないかと。引き続き質の高い論文数の増加に向けてしっかり取り組んでいただきたい。

中期計画 (8-1)	社会課題の解決及び社会改革の実現に寄与する、科学的理論及び基礎的知見を創出するため、共同利用・共同研究拠点を含めた本学の強みである研究分野（医学、物理学、植物学、考古学等）を中心とした、国際研究拠点及び次世代研究拠点を形成する。		
中期計画に定められた評価指標	(1) TOP10%論文数増加率第3期末（令和3年度）比：110% (2) 国際共著数増加率第3期末（令和3年度）比：115%		
評価指標の年度目標	(1) 102% (2) 104%	評価指標の達成状況	(1) 100.9%(988/979 報) (2) 109% (696/640 報)

- ・中期計画 9-2：JST「創発的研究支援事業」の採択者が前年度に引き続き3名輩出されたことは評価できる。

他方で、研究教授・研究准教授制度の継続実施、若手トップリサーチャー研究奨励事業の継続実施などがアウトカムにつながっているように見える。中期計画 No.9-1 の博士課程大学院生支援（OUフェロシップなど）から学位取得後もシームレスに若手が独立した研究代表者として活躍することを促進する魅力的な研究環境の整備に期待する。また、若手研究者支援の対策を補強する必要があると思われる。たとえば、委員会や授業等、若手教員の負担をなるべく減らす、研究に注力できる体制を作る、学内での支援事業の拡張、国際共同研究の支援などを検討してはいかかがか。

中期計画 (9-2)	研究支援人材や研究資金の優遇措置を含めた総合的な支援策により、優れた若手研究者の活躍を支援し、自由な発想で挑戦的研究に取り組み、その能力を最大限発揮できる魅力的な研究環境を整備・維持する。		
中期計画に定められた評価指標	(1) 若手研究者の論文数令和3年度比：153%		
評価指標の年度目標	110% (628 件)	評価指標の達成状況	110% (627/571 報)

- ・中期計画 13-1：評価指標を6年間で達成できるように、外部環境を分析した上で、目標達成のための対応の検討をしてみたい。

中期計画 (13-1)	イノベーション創出を持続的に促す安定的な財務基盤を確立し、その拡大を目指す。このため、コスト・リスクの適切な管理下で、使途制約が少ない多様な財源獲得につながる体制を構築し、産学連携や寄付金等の外部資金の獲得拡大を図るとともに、保有資産活用の有効性向上のため、資金・ノウハウ等「民」の力との協働を実施する。また、多様な財源獲得を促す学内先行投資を優先しつつ、将来ビジョンや社会的ミッションの実現につながる資源配分を、適時適切に行うことのできる自律的な財務マネジメント手法を形成する。		
中期計画に定められた評価指標	(1) 民間由来の外部資金収入伸率：+40%(中期目標期間6か年の前後比較) (2) 学内の戦略的経費のうち先行投資対象の占めるシェアの伸率：+100% (第4期開始時から終了時のシェア比較)		
評価指標の年度目標	(1) +13.4% (R4 目安) (2) +34% (目安)	評価指標の達成状況	(1) +6.4% (50.03 億円/47.0 億円) (2) +49% (14.9%/10%)

その他の中期計画にかかる年度の進捗状況は、「Ⅲ：当該年度の計画を十分に進捗している」と自己評価されているが、評価センターではそれぞれの進捗状況について検証した後、達成状況を積極的に評価するコメントや、改善等に向けてのコメントを各担当部署にフィードバックした。

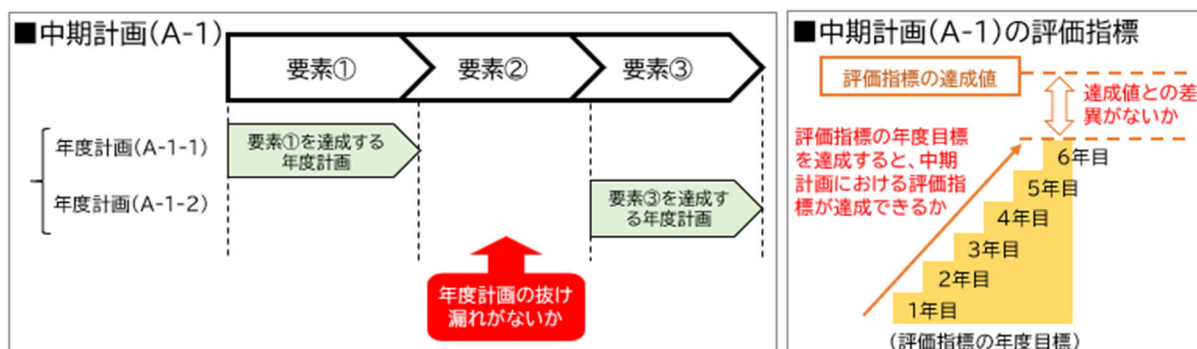
#### 4 評価センター 所見

令和5年度は第4期中期目標期間の二年目であり、年度ごとのモニタリング（中間評価）とレビュー（年度末の評価）を行うことによる進捗状況の検証を行った。レビューでは計画担当部署より提出された「中期計画の進捗状況に係る点検シート」に記載された実施状況、達成状況、アウトカム／社会的インパクト、目標と現状にギャップがある場合の対応策について評価センターの作業部会と専門部会において合議により検証し、必要な場合は計画担当部署に確認のコメントを返却したうえで、各計画の進捗状況の検証結果（コメント）を「中期計画の進捗状況に係る点検シート」に記載して担当部署にフィードバックした。

中期計画ごとの年度の進捗状況については、計画担当部署により自己評価がなされ、IVが2件、Ⅲが13件、Ⅱが3件であり、Iと評価された計画はなかった。IVは、年度の目標を上回って達成した場合や当初計画していた以上の進捗や成果があった場合に付される評価であり、IVを付した計画は、法人評価における評価指標の段階判定において「達成水準を大きく上回っている（iii）」に最も結びつきやすい計画と考えられる。第4期中期目標期間の二年目である令和5年度の検証において、そうした自己評価を付した計画が2件あったことは望ましく、今後も順調な進捗を期待するものである。今回、自己評価がIVでなかった計画については、年度の計画を十分に進捗するだけでなく、優れた実績・成果を上げることを意識することで、自己評価の上昇につながると考える。また、評価センターから今後さらに実施内容の充実が図れるようコメントを付された計画については、計画担当部署において十分な検証と対応をお願いしたい。

昨年度の検証では、各年度の年度計画が順調に進行したときは、4年目終了時点や中期目標期間末の時点でも予定調和的に中期計画が順調に実施されているとの見通しを示したうえで、各計画について中期目標期間全体を見通した各年度の進捗状況を検証することについて言及したが、今年度は、中期目標期間全体を見通した進捗状況について予備的に検証した。その結果、順調に進捗している計画も今後の見通しに改善が必要な計画もあったものの、いずれも二年目としては順調との見方ができた。しかしながら、中期計画と年度計画の関係に着目してみると、年度計画が中期目標期間全体を見通した年度計画になっているかどうか、進捗状況を確認する指標（評価指標の年度目標）が年度の進捗を測るだけでなく、最終的に中期目標期間終了時に達成すべき指標（評価指標）と調和しているかなど、年度計画の立て方について見直しの余地があるのではないかと考えられた。計画担当部署におかれては、4年目終了時報告に向けていまいちど確認をお願いしたい\*。また、「中期計画の進捗状況に係る点検シート」についても、中期目標期間全体を見通した進捗状況を確認しやすくする必要はある。

##### ※確認の観点のイメージ



今後、評価センターでは、4年目終了時（令和7年度、報告は令和8年度）及び6年目終

了時（令和 9 年度、報告は令和 10 年度）における報告を視野に入れ、令和 6 年度及び令和 8 年度のレビューにおいては、中期計画の進捗状況に係る評価センターの段階判定結果を計画担当部署に通知することとしている。評価センターによる検証が、中期計画及び中期計画に係る評価指標の達成と、各中期計画における優れた実績・成果の積み重ねの一助となることを期待したい。